

# 令和4年度 建設委員会行政視察報告書

建設委員会  
委員長 金谷 幸則

- 1 視察期間 令和4年8月22日（月）
- 2 視察先及び視察事項  
富山市ファミリーパーク  
「富山市ファミリーパーク熱帯鳥類保全施設について」
- 3 視察参加委員

委員長	金谷	幸則
副委員長	豊岡	達郎
委員	藤田	克樹
〃	高原	讓
〃	岡部	享
〃	江西	照康
〃	谷口	寿一
〃	松井	桂将

- 4 随行職員

議事調査課調査係長	谷端	裕美子
議事調査課主任	木戸	雅人

## 5 視察概要

### (1) 視察事項

- ・富山市ファミリーパーク熱帯鳥類保全施設について

### (2) 視察の目的

富山市ファミリーパークは、呉羽丘陵の城山公園内に位置し、緑豊かな里山の自然環境の中で家族が楽しみ、憩う施設として市民に親しまれている。

また、令和4年9月17日に、合計3億円の寄附を活用して整備された熱帯鳥類保全施設（愛称「バードピア」）がオープンの手配であり、その準備が進められている。

今回の視察ではその進捗を確認し、当該事業への理解を深め、今後の委員会活動の参考にするもの。

### (3) 取組の概要

富山市ファミリーパークの熱帯鳥類保全施設は、北陸の冬においても熱帯の鳥類が快適に過ごせる施設の整備に充ててほしいという趣旨で、平成31年1月から4月に寄附された合計3億円を活用して整備されたものであり、令和4年9月17日に一般公開される。展示予定の鳥類は12種32羽で、そのうち6種は希少種である。

「熱帯の鳥類の保全」～熱帯鳥類の保全や多様性を知り、人と動物との共存を考える～」をコンセプトとしており、熱帯鳥類の持つ様々な色彩や、くちばしなどに見られる特徴的な形態の違い、群れ社会における行動の違いなどを観察することで、生物の多様性を感じてもらうものである。また、展示予定の鳥類には希少種も含まれており、特にヨウムについては富山市ファミリーパークで繁殖プロジェクトを立ち上げ、野生復帰を想定した繁殖技術の確立に取り組むこととしており、こうした保全事業の取組を通して、人と鳥類との関わりや、自然環境保護の重要性を伝えていくこととしている。

### (4) 所感

〔金谷委員長〕

北陸の冬においても熱帯の鳥類が快適に過ごせることを目的に整備された施設には東南アジアエリア・アフリカエリア・南米エリアに展示スペースを分けて展示されており、今までのライチョウで培った繁殖技術を生かして野生復帰を想定した取組も予定されているとのことだった。一般では見ることでできないバックヤードも視察させていただき、展示スペースに展示するまでの過程なども詳しく教えていただいた。今後多くの市内外からの来場者が増えることに期待したい。

〔豊岡副委員長〕

熱帯鳥類保全施設の整備状況を確認した。東南アジアエリア、アフリカエリア、南米エリアで生息する鳥類の慣らしが既に開始されていた。鳥の鳴き声、匂いがして鳥を感じることができた。複数の鳥類が同じケージに入っていたが、それぞれの縄張をつくっていた。特にアフリカのヨウムという鳥は乱獲により希少種となっており、繁殖プロジ

ェクトを立ち上げて現地に返したいというお話を伺い、このような保全事業はすばらしいと感じた。希少動物保全基金も運営されており、市民に愛される富山市ファミリーパークとなってほしいと思った。

〔藤田委員〕

熱帯鳥類館を建設するに当たっての背景に非常に感銘を受けた。また、保全事業に力を入れる方針としている点に興味を引いた。特に、視察させていただいた施設内に繁殖室やひなを育てる部屋を設置し、繁殖技術を確立し、野生復帰を目指していることについて、今後の取組を含め、広く一般市民に理解いただくことが、環境保護の観点から大事であると感じた。今回の背景にあるヨウムについて、乱獲などによって個体数が激減しており、ファミリーパークからアフリカ西海岸に、一羽でも多くのヨウムが野生復帰することを期待している。

〔高原委員〕

熱帯鳥類保全施設は、個人から頂いた多額の寄附により整備したものであり、熱帯鳥類の特徴的な色彩、形態、行動の違いを間近で観察できるとともに、生物の多様性を感じることもでき、環境教育の実践の場としても大いに期待されるすばらしい施設である。また、熱帯鳥類の特徴的な鳴き声や匂いも感じることができる施設の工夫も随所に見られ、絶滅危惧種のヨウムの展示もあり、今後、実践される予定の保護増殖事業と合わせ、これからも市民に親しまれ、愛されるファミリーパークの人気施設の一つとなると思われるわくわくする施設である。

〔岡部委員〕

9月17日にファミリーパークにおいて一般公開される熱帯鳥類館「バードピア」を市議会建設委員会で視察した。この施設は、神奈川県の栗原 路子(故人)さんが保護した南米原産の鳥「オキナインコ」をファミリーパークが引き取った縁と、熱帯地域に生息する鳥類が冬でも快適に過ごせる鳥舎を設ける財源として受けた寄附金を活用し建設され、自然に近い環境の中、「東南アジア」「アフリカ」「南米」の3エリアに、ヨウムなど希少種6種を含む12種31羽を展示予定で、繁殖させ自然に返すことも目的に南国に生息する鳥類を観察できる施設である。

〔江西委員〕

南米原産の鳥「オキナインコ」を引き取った縁で受けた計3億円の寄附をもとに、新たに建築された鳥舎は、熱帯地域に生息する鳥類が冬でも快適に過ごせる最新設備を有するものである。世界の富裕層の間では、愛玩するペットとして、熱帯に住む鳥類の人気が高いことから、違法な狩猟が後を絶たず、絶滅の危機にさらされているものもあるとのことで、この鳥舎は、それらの鳥類の繁殖と、さらには当地での放鳥を目指している。この課題は社会的な意義が高いことから、ぜひとも成功させてもらいたいものである。

〔谷口委員〕

熱帯鳥類保全施設は、ペットにするために乱獲されたりしている鳥を、富山市ファミリーパークの繁殖技術を生かし、いずれは野生復帰を目指すとのことで、単に動物の展示ということだけでなく、自然環境保護にもつながっているということで、このことを子どもたちにも教育の中で教えていくことも重要と考える。また、希少動物を守るための基金も立ち上げておられ、多くの方に広く知ってもらい、より一層の施設の充実に充ててもらいたいと感じた。旭山動物園ではふるさと納税の寄附項目に動物園管理が含まれており、本市においても検討していく必要があると思う。

〔松井委員〕

ファミリーパーク内の施設整備としてこの度、「熱帯鳥類保全施設」が完成し、9月17日から一般公開される。北陸の冬においても熱帯の鳥類が快適に過ごせる施設として、篤志家から頂いた基金を活用し整備されたものである。展示予定の鳥類には12種32羽が展示され、希少種として東南アジアエリアにはカンムリシロムク、アフリカエリアにヨウム（5羽）、南米エリアにはアカコンゴウインコなどが展示される。ヨウムについては繁殖プロジェクトを立ち上げ、野生復帰を想定した繁殖にも取り組むとのことである。熱帯鳥類の保全や多様性を知り、人と動物の共存を考える施設として市内外から来園者が安心して過ごせる施設として期待している。

令和4年8月22日（月） 富山市ファミリーパーク

